1．埋蔵文化財包蔵地

No.	名称	種類	所在地	時代	主要な検出遺構	主要な出土遺物	地図
1	我堂南遺跡	集落跡	天美我堂2・3	古墳〜中世			A4 A5
2	大和川今池遺跡	集落跡 社寺跡 古墳 生産遺跡	天美西1〜8 天美我堂4〜7	旧石器〜中世	【古墳時代】竪穴住居、掘立柱建物、古墳(方墳) 【飛鳥〜鎌倉時代】水田、掘立柱建物、井戸	【旧石器時代】ナイフ形石器 【縄文時代】有舌尖頭器 【古墳時代】金銅製鈴、ヒスイ製勾玉、韓式系土器、埴輪 【古代〜中世】「山上」墨書土器、白毫、包丁、刀、曲物、緑釉陶器、「和同開珎」銅銭、瓦	A2 A3 A4 B2 B3 B4
3	城連寺東遺跡	集落跡	天美北2	古墳〜中世			C1 C2
4	城連寺遺跡	集落跡 社寺跡	天美北3・5	弥生〜近世			B1 B2 C1 C2
5	池内遺跡	集落跡 その他の墓 生産遺跡	天美北1・6 天美東3・5	弥生〜近世	【弥生時代】平地建物、掘立柱建物、水田 【古墳時代】方形周溝墓 【平安時代】掘立柱建物、土坑墓、井戸	【弥生時代】前期彩文土器 【平安時代】「相野宮」墨書土器、硯、飾帯、緑釉陶器、鞴羽口	B2 C2
6	天美東1丁目遺跡	集落跡	天美東1	中世			C3
7	堀遺跡	集落跡 生産遺跡	天美南4・5	古墳〜近世	【古墳時代】掘立柱建物 【飛鳥時代】掘立柱建物 【奈良時代】掘立柱建物、水田、井戸 【中世】掘立柱建物、水田、畠	【古墳時代】滑石製紡錘車 【奈良時代】瓦、砥石	B3 B4 C3 C4
8	天美南遺跡	集落跡	天美南2	弥生〜古墳			C3
9	高木遺跡	集落跡	北新町3〜5 天美我堂5	弥生〜近世	【弥生時代】竪穴住居、掘立柱建物 【奈良〜平安時代】掘立柱建物、条里坪境大畦畔 【中世】掘立柱建物、井戸	【奈良〜平安時代】海獣葡萄鏡、下駄、緑釉陶器 【中世】青白磁	B4 B5
10	清水遺跡	集落跡	北新町6 南新町5・6	古墳〜中世	【古墳時代】掘立柱建物 【奈良時代】条里坪境溝		B5 C5
11	布忍遺跡	集落跡 社寺跡	北新町1・2 南新町1	弥生〜近世	【平安時代】掘立柱建物 【鎌倉時代】井戸	【平安時代】瓦	B4 B5 C4 C5
12	鍵田遺跡	集落跡	南新町4	古墳			B6
13	南新町遺跡	集落跡	南新町2・3	縄文〜中世	【古墳時代】竪穴住居 【飛鳥時代】掘立柱建物、道路側溝 【平安時代】掘立柱建物、井戸	【飛鳥時代】金銅製耳環、ヒスイ 【平安時代】「咋」墨書土器、斎串、石帯(丸鞆)	C5 C6
14	東新町遺跡	集落跡 その他の墓	東新町1〜3 田井城6 天美南1	縄文〜中世	【縄文〜弥生時代】地震噴砂 【弥生時代】掘立柱建物、井戸 【古墳時代】方形周溝墓 【飛鳥時代】道路側溝 【平安時代】掘立柱建物	【弥生時代】石庖丁、石鏃、弥生土器	C4 C5 D4 D5
15	河合遺跡	集落跡 官衙跡	河合1〜6	弥生〜近世	【飛鳥〜奈良時代】大溝 【奈良時代】大型掘立柱建物群、井戸 【鎌倉時代】掘立柱建物	【飛鳥時代】銅製鋺、丹比廃寺式軒丸瓦 【奈良時代】曲物、斎串、瓦、墨書土器 【鎌倉時代】箸、青白磁	C6 C7 D6 D7
16	高見の里遺跡	集落跡	高見の里1〜6	縄文〜近世	【平安〜鎌倉時代】掘立柱建物 井戸	【弥生時代】磨製石剣 【古墳時代】鉄斧 【平安〜鎌倉時代】桝、曲物、青白磁	D5 D6
17	三宅西遺跡	集落跡 その他の墓 生産遺跡	三宅西5〜7 三宅中7	縄文〜中世	【弥生時代】竪穴住居、方形周溝墓 【古墳時代】水利施設	【縄文時代】後期中葉土器 【古墳時代】百済土器	D2
18	田池下遺跡	集落跡	三宅西2	古墳〜中世			D3
19	三宅西4丁目遺跡	集落跡	三宅西4	弥生			D2
20	三宅遺跡	集落跡	三宅中1〜8	弥生〜近世	【平安時代】掘立柱建物、井戸 【中世】掘立柱建物	【平安時代】「□炊□」墨書曲物片	D2〜4 E2〜4
21	三宅東遺跡	集落跡	三宅東6・7	古墳〜中世			E2 F2
22	蔵重遺跡	集落跡	三宅東3・4 別所7	奈良〜近世			E2 E3 F2 F3
23	阿保遺跡	集落跡 官衙跡 生産遺跡	阿保1〜7	弥生〜近世	【古墳時代】水田 【飛鳥時代】掘立柱建物 【奈良〜平安時代】掘立柱建物 【中世】掘立柱建物、井戸	【奈良〜平安時代】製塩土器、瓦 【中世】曲物	D4 D5 E4 E5
24	上田町遺跡	集落跡 生産遺跡	阿保1 上田1〜7 柴垣1	旧石器〜近世	【弥生時代】水田 【古墳時代】竪穴住居、井戸 【飛鳥時代】掘立柱建物 【奈良〜平安時代】掘立柱建物、条里坪境大溝 【中世】掘立柱建物、井戸	【縄文時代】有舌尖頭器 【弥生時代】打製石剣、木製農具、小型仿製鏡 【古墳時代】籠、埴輪、韓式系土器 【奈良〜平安時代】「神功開寳」銅銭、滑石製臼玉	D5 D6 E5〜7
25	新堂遺跡	集落跡 古墳	新堂1〜4 高見の里5・6 柴垣1	旧石器〜近世	【古墳時代】古墳、掘立柱建物、橋梁 【平安〜鎌倉時代】掘立柱建物、井戸	【縄文時代】石棒 【古墳時代】埴輪 【平安〜鎌倉時代】「乾元大寳」銅銭	D6 D7 E6 E7
26	岡遺跡	集落跡 社寺跡 古墳 生産遺跡	柴垣1 岡2〜5	旧石器〜近世	【古墳時代】古墳 【平安〜鎌倉時代】河内鋳物師工房、掘立柱建物、井戸	【旧石器時代】ナイフ形石器 【古墳時代】埴輪 【平安〜鎌倉時代】鋳型、鉄滓、石鍋、青白磁、瓦	E7 E8
27	立部遺跡	集落跡 社寺跡 古墳 その他の墓 生産遺跡	柴垣2 立部1〜5	縄文〜近世	【古墳時代】古墳群 【奈良時代】火葬墓 【平安時代】河内鋳物師工房、火葬墓、木棺墓群、掘立柱建物、井戸 【鎌倉時代】河内鋳物師工房、掘立柱建物 【室町時代】掘立柱建物、井戸	【旧石器時代】ナイフ形石器 【古墳時代】滑石製子持勾玉、埴輪 【平安時代】「東寺」墨書土器、「西城房・應保」線刻土製品、鋳型 【鎌倉時代】鋳型、鉄滓、青白磁 【室町時代】漆器椀、墨書土器、呪符木簡	E7 E8 F6〜8
28	清堂遺跡	集落跡	岡1・6・7 丹南1・2	旧石器〜中世	【古墳時代】井戸 【平安〜鎌倉時代】掘立柱建物、井戸	【旧石器時代】ナイフ形石器 【平安〜鎌倉時代】石鍋	D7〜9 E8 E9
29	丹南遺跡	集落跡 官衙跡 社寺跡 城館跡 その他の墓 生産遺跡 藩校跡	丹南2〜5	縄文〜近世	【飛鳥〜平安時代】掘立柱建物、井戸、道路側溝 【中世】河内鋳物師工房、掘立柱建物、井戸、寺院、木棺墓 【近世】丹南藩陣屋、丹南学校	【縄文時代】有舌尖頭器 【古墳時代】埴輪 【中世】「来迎寺」軒丸瓦、「南無□□□□」軒平瓦 【近世】赤絵大皿、水滴、硯	E8 E9
30	西大塚遺跡	集落跡	西大塚1、西野々1	中世			F5
31	一津屋町遺跡	集落跡 古墳	一津屋1〜5	縄文〜近世	【古墳時代】古墳跡 【奈良時代】井戸 【平安〜鎌倉時代】掘立柱建物	【古墳時代】埴輪 【奈良時代】櫛、斎串、銅製帯金具鉈尾、人面墨書土器、「船」墨書土器、「萬年通寳」銅銭	F4 F5 G4 G5
32	別所遺跡	集落跡 城館跡	別所7〜9	古墳、奈良、中世	【奈良時代】掘立柱建物 井戸	【古墳時代】埴輪	F2 F3
33	大堀遺跡	集落跡 城館跡 社寺跡	大堀1〜4	旧石器〜近世	【古墳時代】竪穴住居 【奈良時代】掘立柱建物	【古墳時代】埴輪 【奈良時代】製塩土器、瓦	G2〜4
34	屋後遺跡	集落跡	小川6	古墳〜中世		【古墳時代】埴輪	G3 H3
35	小川遺跡	集落跡	小川1・4・5	古墳〜中世	【飛鳥時代】井戸 【平安時代】井戸 【鎌倉時代】井戸	【平安時代】曲物 【鎌倉時代】曲物	G3 G4 H3 H4
36	津堂遺跡	集落跡	小川2・3	縄文〜古墳 中世			H4
37	若林遺跡	集落跡	若林2	縄文〜中世	【弥生時代】井戸 【古墳時代】掘立柱建物 井戸 【平安時代】掘立柱建物 井戸	【弥生時代】弥生中期・後期土器 【古墳時代】埴輪	H3
38	樋野ヶ池窯跡	生産遺跡	上田6	古墳	須恵器窯灰原	【古墳時代】須恵器	F6
39	狐塚古墳跡	古墳	天美西1・5・6	古墳	前方後円墳(全壊)		B3
40	権現山古墳跡	古墳	三宅中6	古墳	前方後円墳(全壊)		D2 E2
41	三宅古墳跡	古墳	三宅中4	古墳	帆立貝式古墳(全壊)		E2
42	立部古墳群跡	古墳	立部3	古墳	円墳・方墳(全壊)	【古墳時代】武人形埴輪	F7
43	大塚山古墳	古墳	西大塚1	古墳、中世	前方後円墳(宮内庁陵墓参考地)		F5 F6
44	山ノ内古墳跡	城館跡	上田5	古墳	前方後円墳(全壊)		E5 E6
45	川ノ上古墳跡	古墳	一津屋5	古墳	前方後円墳(全壊)	【古墳時代】巫女形埴輪、蓋形埴輪	G4
46	一津屋古墳	古墳	一津屋5	古墳、中世	前方後円墳(半壊)		G5
47	長尾街道	街道	天美我堂〜一津屋	飛鳥〜近世	【飛鳥〜奈良時代】道路側溝	【飛鳥〜奈良時代】墨書土器	A5〜G5
48	竹内街道	街道	岡〜立部	飛鳥〜近世	【近世】道路側溝		D8〜F8
49	難波大道跡	古道	天美西	飛鳥〜奈良	【飛鳥時代】道路側溝		A1〜5
50	丹比大溝	暗渠	一津屋〜高見の里 河合	飛鳥〜近世	【飛鳥〜中世】大溝	【奈良時代】人形、櫛、下駄、人面墨書土器、「神功開寳」銅銭	C7〜F5
51	蔵重西遺跡	集落跡 官衙跡	三宅東4・5	奈良〜中世	【奈良〜平安時代】掘立柱建物 井戸	【奈良〜平安時代】円面硯 瓦	E2 E3 F2 F3
52	下高野街道	街道	天美西〜河合	平安〜近世			B1〜C7
53	中高野街道	街道	三宅中〜丹南	平安〜近世			E1〜9
54	天美西遺跡	集落跡	天美東9	弥生〜中世	【中世】掘立柱建物		B3
55	天美北6丁目北遺跡	集落跡	天美北6	弥生〜近世			B2
56	天美北6丁目南遺跡	集落跡	天美北6	弥生〜近世			B2
57	若山遺跡	生産遺跡	上田6	古墳 中世〜近世	【中世〜近世】水田、井戸	【古墳時代】土師器 【中近世】瓦器椀、陶磁器	E6 F6

2．寺院

No.	名称	所在地	宗派	摘要	地図
1	善正寺	天美我堂7	浄土真宗(東)	大阪市平野区にあった真言宗・金剛乗院が、室町時代・明応年間(1492〜1500)に改宗し現在の最勝寺の地に移転し、浄蓮寺と称する。安土桃山時代・文禄2年(1593)僧順欽の時に「善正寺」と改号。その後、江戸時代・元和2年(1616)に砂村へ移り、寛永18年(1641)に現在の地に移った。	A4
2	安楽寺	天美西2	浄土真宗(東)	江戸時代・延宝7年(1679)に僧先静が創建したと伝えられる。	B2
3	施福寺	天美西3	浄土真宗(東)	創建時期は不明。薬師地蔵堂の薬師如来・日光菩薩・月光菩薩の三尊は、元は薬師堂(寺院No.57)のもので、元和元年(1615)大坂夏の陣で薬師堂が荒廃したため祀ったと伝えられる。	B2
4	最勝寺	天美北5	浄土真宗(東)	善正寺が砂村へ移った後に残った寺院で、江戸時代・寛永12年(1635)に現寺号に改号。境内には、昭和の初め頃まで若者たちが力試しに使った4個の力石がある。	B2
5	安明寺	天美北5		南北朝時代・元中年間(1384〜1392)に、楠木氏一族の和田正綱(正遠)の家臣・城連寺安明が創建したと伝えられる。江戸時代・宝永元年(1704)の大和川付け替えで寺地は失われ、嘉永年間(1848〜1853)に、最勝寺境内に小堂を設け移転した。	B2
6	敬恩寺	天美東8	浄土真宗(西)	室町時代・永正11年(1514)に真言宗から改宗したと伝えられる。明治6年(1873)に89番小学が置かれ、明治8年(1875)に池内小学校(現天美小学校)へと校名を変更した。	B3
7	貞正寺	天美南4	浄土真宗(東)	江戸時代・寛文2年(1662)僧法慢の創建とされるが、寛文9年(1669)に僧法道が創建したとも言われる。	B4
8	大林寺	北新町1	融通念仏宗	当地には元来「念仏寺」と号する寺院があったが廃寺となっていた。そのため、明治11年(1878)に現堺市美原区大饗に所在した廃寺・大林寺を当地に移転した。明治に廃寺となった永興寺の本尊・十一面観音立像等を安置している。河内西国三十三所の札所。 【市指定有形文化財】十一面観音立像(平安時代後期) 平成21年(2009)2月3日指定	C5
9	布忍寺(東之坊)	北新町3	真言宗	古墳時代・用明天皇2年(587)に聖徳太子が創建したと伝えられる。平安時代に創建された布忍寺(永興寺)の塔頭の名残りとも考えられている。	B4
10	圓成寺	北新町5	浄土真宗(西)	惣道場より発祥したと思われる。	B4
11	教通寺	南新町1	浄土真宗(西)	惣道場より発祥したと思われる。山門は昭和17年に解散した「更池銀行」より移築されたものである。	C5
12	多聞院	南新町1	単立	平安時代・寛治3年(1089)に永興律師が創建し、堀河天皇勅願の多聞天を安置していたと伝えられる。江戸時代・寛政8年に(1796)5代住職龍昌が作った更池村惣井戸は新町図書館前に移築されている。	C5
13	稱名寺	南新町2	浄土真宗(西)	惣道場より発祥したと思われ、江戸時代・貞享4年(1687)に現寺号を与えられたとされる。	C6
14	浄林寺	南新町5	黄檗宗	元は真言宗で、江戸時代・元禄11年(1698)に僧瑞光が改宗。その後、寺運が衰えるが享保2年(1717)に僧慧極と僧龍統により再興された。浄林寺本堂正面には慧極筆の「浄林寺」扁額が掲げられている。	B5
15	宝泉寺	南新町6	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨3年(1323)に、法明上人の念仏勧進道場として創建したと伝えられる。	B5
16	浄信寺	東新町5	浄土真宗(東)	惣道場より発祥したと思われる。かつて本堂に葺かれていた文政2年(1819)年銘の瓦が残る。	C6
17	稱念寺	河合3	浄土真宗(東)	鎌倉時代・弘安6年(1283)に、摂津源氏の祖である源満仲の家臣・多田仲光の末裔により創建されたと伝えられる。	D7
18	敬念寺	高見の里3	浄土真宗(東)	室町時代・天文元年(1532)の創建と伝えられる。江戸時代・延宝年間(1673〜1680)に現寺号を与えられた。本堂には正徳3年(1713)再建の棟札が残り、太鼓楼には明治12年(1879)再建の棟札が残る。	D5
19	善宗寺	田井城5	日蓮宗	江戸時代・宝暦8年(1758)に現在の大阪市中央区谷町9丁目に創建された寺院で、田井城の信徒達の希望により明治29年(1896)に現在の地に移転した。	D4
20	陽雲寺	田井城5	浄土真宗(東)	飛鳥時代・舒明天皇13年(641)創建の宮寺で天台宗より改宗したと伝えられる。本堂は室町時代・明応7年(1498)年僧快智の建立とされる。本堂に江戸時代・天保12年(1841)再建の棟札が残り、太鼓楼に文化元年(1804)の棟札が残る。	D4
21	西方寺	三宅中5	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨年間(1321〜1323)に、法明上人の念仏勧進道場として創建したと伝えられる。昭和50年代までは河内西国三十三所の札所であった。	D3
22	善長寺	三宅中5	浄土真宗(東)	室町時代・文明元年(1469)に僧成教が創建したと伝えられる。江戸時代に三宅村の樋口善左衛門と大橋長右衛門が建立したことから二人の頭文字をとって寺号としたと伝えられる。	E3
23	願久寺	三宅中5	浄土真宗(東)	元は天台宗で、戦国時代・永正11年(1514)に僧浄琢により中興し、改宗したと伝えられる。明治7年(1874)に善長寺とともに三宅学校(現三宅小学校)が置かれた。	E3
24	玉應寺	三宅中5	浄土真宗(東)	室町時代・明応元年(1492)に僧正信が創建したと伝えられる。	D3
25	西徳寺	阿保5	浄土真宗(東)	室町時代・永正3年(1506)の創建と伝えられる。	E4
26	安養寺	阿保6	浄土真宗(東)	江戸時代・寛文12年(1672)の創建と伝えられる。	E4
27	願正寺	上田7	浄土真宗(東)	元は真言宗で、江戸時代・寛永年間(1624〜1643)に中興したと伝えられる。本堂には宝永2年(1705)と文政4年(1821)の棟札が残る。明治7年(1874)には松原小学校が置かれた。	E6
28	良念寺	新堂3	浄土真宗(東)	室町時代・永正12年(1515)に本願寺より本尊を下付されたことから、この頃の創建と思われる。	E7
29	浄光寺	新堂3	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨2年(1322)に法明の念仏勧進道場として創建したと伝えられる。室町時代・永正元年(1504)に焼失し、江戸時代・明暦元年(1655)に僧旅休が再建した。	E7
30	泉福寺	岡5	浄土真宗(東)	室町時代・弘治元年(1555)に僧頓法が創建したと伝えられる。山門前の地蔵堂にある3体の石仏は毎年の地蔵盆に本堂に移される。その内1体には江戸時代・正徳3年(1713)銘がある。	E8
31	圓正寺	岡5	浄土真宗(東)	用明天皇の時(586〜587)の創建と伝えられる。元は丹北郡大塚にあり「小北山向福寺」と号していたが焼失。江戸時代・寛永年間(1624〜43)に僧正善が現在の地に再興したと伝えられる。	E8
32	来迎寺	丹南3	融通念仏宗	天平年間(729〜748)の創建と伝えられる。鎌倉時代・正和年間(1312〜1316)法明上人により中興し、江戸時代・元和9年(1623)には、高木氏が隣地に丹南藩の陣屋を構え菩提寺として再興。正保年間(1644〜1647)からは僧源通により、中本山格六別時の一つとして栄えた。寺の墓地には丹南藩主の五輪塔が残る。本堂には承応2年(1653)、元文2年(1732)、明治33年(1900)の棟札が残る。 【府指定天然記念物】いぶき 昭和56年(1981)6月1日指定	E8
33	栄久寺	立部1	浄土真宗(東)	元は「観音寺」という真言宗寺院で、室町時代・明応年間(1492〜1500)に改宗・改号したと伝えられる。安土桃山時代・天正8年(1580)に石山合戦が和睦となり8月に和歌山へ退いた教如が、河内国の門徒衆や坊主衆に宛てた書状が残る。	F7
34	安養寺	西大塚1	浄土真宗(西)	創建年代は不詳である。長らく羽曳野市島泉所在「明教寺」の末寺であった。	F6
35	大念寺	西大塚1	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨年間(1321〜1323)に、法明上人の念仏勧進道場として創建したと伝えられる。	F6
36	西法寺	西野々1	浄土真宗(東)	江戸時代・寛文9年(1669)に惣道場より発祥したと伝えられる。昭和17年までは、東本願寺と西本願寺の両派に属していた。	F5
37	法泉寺	一津屋1	浄土真宗(西)	元は真言宗で、室町時代・天文2年(1533)に僧浄信により改宗したと伝えられている。江戸時代は興正寺の末寺であった。	G5
38	頓随寺	別所6	浄土真宗(東)	室町時代の創建と伝えられ、江戸時代・寛文8年(1669)頃には寺院化していたと思われる。本堂の欄間には宝暦6年(1756)銘と寄進者である河内屋宗山(喜右衛門)の名が刻まれている。	F3
39	教専寺	大堀3	浄土真宗(西)	惣道場より発祥したと思われる。明治7年(1874)には大堀小学校(現恵我小学校)が置かれた。	G2
40	不退寺	小川4	浄土真宗(東)	江戸時代・貞享3年(1686)に僧善入が創建したと伝えられる。	H3
41	正定寺	小川4	浄土真宗(西)	江戸時代・元禄6年(1693)に小川村の谷与次兵衛が創建したと伝えられる。現在は不退寺と同じ建物に併設されている。	H3
42	立法寺	若林1	浄土真宗(東)	文禄3年(1594)以前に惣道場として発祥したとされ、江戸時代・寛文8年(1668)に寺号が与えられた。	H3
43	本了寺	若林1	日蓮宗	江戸時代・元和6年(1620)に僧日空が創建。若林の郷士・長尾氏の菩提寺で江戸時代末に僧日泰により中興した。境内には、元和3年(1617)没の初代長尾輝虎(日慶)の五輪塔が残る。	H3
44	東池庵(東池寺)	若林1	日蓮宗	江戸時代・元和元年(1615)に僧日空が創建したと伝えられるが、慶長7年(1602)創建ともされる。明和年間(1764〜1771)に僧日理により中興。	H3
45	福應寺跡	新堂2 上田7	浄土真宗(東)	江戸時代・寛永年間(1624〜1643)の創建と伝えられる。昭和9年(1934)に再建を予定したが、台風被害のため中止された。現在、跡地(上田7)には江戸時代の墓石2基と大正元年(1912)に建てられた「福應庵碑」石碑が残されている。明治7年(1874)には松原小学校の分教場が置かれた。	E6
46	浄念寺跡	天美南4	融通念仏宗	江戸時代・慶長18年(1613)年に堀村の檀那が創建したと伝えられる。近代に廃寺となったが、跡地には檀那が建てた浄念庵があり本尊等が祀られている。また、文化6年(1809)銘の延命地蔵が祀られており、毎年8月に地蔵盆が行われている。	B4
47	西蓮寺跡	東新町5	浄土真宗(西)	創建年不明で、江戸時代・寛政4年(1792)頃には寺名が確認できる。大正時代末期頃に廃寺となった。	C6
48	豊興寺跡	三宅中4	融通念仏宗	鎌倉時代・元亨年間(1321〜1323)に、法明上人の念仏勧進道場として創建したと伝えられる。明治30年に廃寺となり、本尊は西方寺(寺院No.21)に引き継がれた。跡地には豊興寺地蔵が残る。	E3
49	光輪寺跡	三宅中4	浄土真宗(東)	昭和初期に廃寺となった。	E2 E3
50	神宮寺跡	天美我堂4	黄檗宗	現在の我堂八幡宮地(神社No.1)に存在したが明治時代初期に廃寺となった。本尊・阿弥陀如来像は、善正寺に引き継がれた。	A4 B4
51	梅松院(三宅寺)跡	三宅中4	不明	屯倉神社の神宮寺で、平安時代・天慶5年(942)の創建と伝えられる。明治4年(1871)に廃寺となり、本尊・阿弥陀如来立像等は西方寺(寺院No.21)に引き継がれた。	E3
52	観念寺跡	上田7	真言宗	僧秀盛が室町時代・永禄年間(1558〜1569)に創建したと伝えられる。現在の柴籬神社地に存在したが、明治5年(1872)に廃寺となった。本尊・十一面観音像は、近くの観音堂へ引き継がれた。現在の柴籬神社南門は、観念寺の山門でもあった。	E6
53	布忍寺(永興寺)跡	北新町2・5 南新町1・6	不明	平安時代・寛治3年(1089)の創建で、中世には七堂伽藍を備えていたと伝えられる。大林寺や布忍寺に縁起が残る。明治6年(1873)に廃寺となり、本尊・十一面観音立像は大林寺に移された。堂宇は第32番小学として利用され、明治8年(1875)に向井小学校(現布忍小学校)へと校名を変えた。	B4 B5 C4 C5
54	東之坊跡	新堂3	真言宗	室町時代・永禄年間(1558〜1569)に僧秀盛が創建したと伝えられる。廃寺となった後、本尊・地蔵菩薩像は良念寺に引き継がれた。	E7
55	安明寺跡	天美北3〜5	不明	「寺院No.5 安明寺」を参照。	C1
56	山寺廃寺	天美我堂5	不明	小字名に「山寺」という所があり、発掘調査で平安時代後期の瓦が多数出土した。	B3 B4
57	薬師堂推定地	天美西4	不明	平安時代創建の七堂伽藍を備える大寺で、大坂夏の陣で荒廃したと伝えられる。小字名に「薬師堂」という所があり、施福寺(寺院No.3)の薬師如来像他2体は当寺のものとされる。	A2 A3 B2 B3
58	観音堂廃寺	天美西7	不明	小字名に「観音堂」という所があり、発掘調査で平安時代後期の瓦が多数出土した。	A2
59	大日堂推定地	天美西1 天美東8 天美南6	不明	小字名に「大日」という所があり、周辺の調査より室町時代の寺院と推定される。	B3
60	大堀廃寺	大堀2	不明	発掘調査で奈良時代の瓦が出土。	G3
61	大和寺跡	丹南4	不明	小字名に「大和寺」という所があり、発掘調査で「南無□□□□」を記す軒平瓦のほか、鎌倉〜室町時代の瓦が多数出土した。また、「丹南村明細帳」に「大和寺」の寺名が見られる。	E9
62	薬泉寺跡	岡5	不明	小字名に「薬仙寺」という所があり、発掘調査で鎌倉時代の瓦が多数出土した。また、広隆寺文書の「松原庄年貢目録」に「薬泉寺」という寺名が見られる。	E8
63	観音寺推定地	立部2	不明	小字名に「観音寺」という所がある。「埋蔵文化財包蔵地No.27 立部遺跡」を参照。	F7 F8
64	三昧堂推定地	別所6	不明	伝承が残る。	F3
65	善浄寺推定地	河合2	不明	小字名に「善浄寺」という所がある。	C6 D6
66	八王寺推定地	河合1	不明	小字名に「八王寺」という所がある。	D7
67	善乗寺推定地	三宅西2	不明	小字名に「善乗寺」という所がある。	D4
68	安時寺推定地	岡1	不明	小字名に「安時寺」という所がある。	E7
69	弥生寺推定地	立部1	不明	小字名に「弥生寺」という所がある。	E7 F8 F7 F8
70	善光寺推定地	西大塚1	不明	小字名に「善光寺」という所がある。	F5 F6
71	新堂坊推定地	一津屋3	不明	小字名に「新堂坊」という所がある。	F4

3．神社

No.	名称	所在地	祭神	摘要	地図
1	我堂八幡宮	天美我堂4	誉田別命	江戸時代には「十五社明神」や「氏神十五社神」等と称し、明治時代には「八幡神社」、大正時代には「産土神社」と呼ばれた。江戸時代までは、神宮寺(寺院No.50)と習合していたが、明治時代初期に寺院は廃寺となった。境内には若者たちが力試しに使った明治初期の力石が6個残されている。	A4 B4
2	布忍神社	北新町2	速須佐男之命 八重事代主之命 武甕槌雄之命	平安時代・寛治3年(1089)の創建と伝えられる布忍寺(永興寺)の鎮守社として創建されたとされる。本殿は一間社流造檜皮葺で、昭和57年(1982)の調査・改修時に「寛文三年(1663)銘奉納札」が発見された。本殿にかかる「布忍宮」扁額は、寛文元年(1661)に来日し黄檗宗総本山万福寺第五世となった中興の祖である高泉性潡の筆である。 境内には合祀された春日神社、水分神社があるほか、神木であるクスやムクなどの大木が見られる。 【府指定有形文化財】本殿(江戸初期)附木片 平成14年(2002)1月29日指定 【市指定有形文化財】布忍八景扁額 宝永2年(1705)奉納 平成21年(2009)2月3日指定	C5
3	河合神社	河合3	素戔嗚命 天児屋根命 事代主命	元は現在よりも広い境内を有し、南面していたという。明治41年(1908)に金岡神社(現堺市北区)に合祀されたが、現在は戻されている。境内の手水石には元文5年(1740)の年号と牛頭天王の名が刻まれている。	D7
4	高見神社	高見の里3	シンメイさん	創建年は不明。祭神のシンメイさんは、女神で、毎夜、柴籬神社へ行かれるので夜間は留守だという伝承がある。境内にはエノキの大木が見られる。	D6
5	田坐神社	田井城5	依網宿禰 呉服漢織 豊宇気毘売神	延喜式内社で、平安時代・貞観4年(862)以前の創建と伝えられる。古代氏族・田井氏の祖を祀るとも言われる。明治41年(1908)に柴籬神社(神社No.6)に合祀されたが、現在は元の場所に戻されている。境内にはクロガネモチの大木が見られる。	D4
6	屯倉神社	三宅中4	菅原道真 須佐之男命 品陀別命	平安時代・天慶5年(942)の創建と伝えられる。江戸時代までは梅松院と習合していたが、明治4年(1871)に梅松院は廃寺となった。境内には市杵島姫社、琴平神社、天照大神社、素戔嗚神社、大物主社、日吉神社、天津神社が合祀されている。また、菅原道真公が大宰府へ赴く際に立ち寄り腰かけたとされる神形石があり、クスやムクの大木も見られる。	E3
6	酒屋神社	三宅中4	津速魂命 (酒屋権現)	延喜式内社で、平安時代・貞観4年(862)以前の創建と伝えられる。古代氏族・中臣酒屋氏の祖を祀るとも言われる。本来の社地は三宅村西方であったが、明治40年(1907)に屯倉神社に合祀された。	E3
7	阿保神社	阿保5	菅原道真	平安時代に平城天皇の第一皇子で歌人・在原業平の父である阿保親王が当地で住まいしたという伝承がある。本殿は17世紀中期に建立されたと思われる一間社流造で、拝殿天井は珍しい花天井である。拝殿は天保13年(1842)の建築で、拝殿横には、合祀されている阿保親王社、厳島姫命社がある。また境内にはクスの大木が見られる。	E4
8	柴籬神社	上田7	反正天皇 菅原道真 依網宿禰	5世紀後半に第24代仁賢天皇の勅命により創建したと伝えられ、社地は反正天皇丹比柴籬宮跡であるとも伝えられる。古来「広庭神社」とも称し、永らく観念寺(寺院No.52)と習合したものであった。平安時代前期・貞観6年(864)に清和天皇から宝幣を賜わり、室町時代・観応3年(1352)には足利直義が参詣している。明治時代初期に観念寺は廃寺となった。境内には合祀されている住吉社、儀神社、稲荷大神社、勝手大神、大歳社、正井殿、十二社権現社、菅原神社がある。	E6
9	十二社権現社	新堂3	伊邪那美大神 伊邪那岐大神 素戔嗚尊 天照皇大神 他10神	室町時代・永禄年間(1558〜1569)に僧秀盛が創建したと伝わるが、その社地は二転三転している。元は東之坊(廃寺)の境内にあった。中高野街道や住吉街道に近いところにあって、熊野詣や高野詣に往来する旅人の道中安全を祈願するものでもあった。 十二社権現は熊野三山に祀られた神々で、他10神は事解之男神、速玉之男神、忍穂耳命、瓊々杵命、彦穂々出見命、鵜茅草葺不合命、軻遇突智命、埴山姫命、彌都波能売命、稚産霊である。	E7
10	出岡弁財天	岡1	弁財天	宮ノ池に向かって突き出た出島に祠が建つ。4世紀末期の応神天皇の時に百済(現朝鮮半島南部)から日本に漢字を伝えた渡来人・王仁が、当地に孔子を祀る聖堂を建て学問を広めたという伝承がある。	E7
11	正井殿	岡3	素戔嗚命	明治時代の神仏分離で竹内街道沿いに移されたが、疫病が流行したため元の地に戻された。江戸時代には、神木「連理の松」が有名であったらしく、江戸時代中期・延宝7年(1679)に刊行された『河内鑑名所記』にその記載が見えるが、現在は残っていない。	E7
12	丹南天満宮	丹南3	菅原道真 天照大神 天児屋根命	丹南の産土神で、江戸時代・元文5年(1740)の『丹南村明細帳』には「氏神天神」と記載されている。安土桃山時代に創建されたと考えられる本殿は、三間社流造檜皮葺で、昭和54年(1979)に調査・改修された。本殿の浜床縁板裏に享保8年(1723)の墨書があり、安政2年(1855)年彩色工事時の棟札が残る。明治41年(1908)に広国神社(現堺市美原区)に合祀されたが、現在は元の場所に戻されている。境内には合祀された八坂神社、伊勢大神宮、稲荷神社、猿田彦社がある。境内入口には延宝7年(1679)銘の石鳥居が建つ。	E9
13	厳島神社	一津屋5	市杵島姫命 (宇賀神)	江戸時代には「弁財天宮」と称し、一津屋古墳(埋蔵文化財No.46)の上に位置する。戦国時代には一津屋城(城館No.6)として利用された。山号は「鐘搗山」で、本殿に扁額が掛けられている。	G5
14	熱田神社	別所6	日本武尊	本殿は一間社流造。境内には稲荷大明神社、龍神大神社、稲荷神社、金毘羅大権現社、庚申堂、不動堂が合祀されている。また他にも江戸時代のかくれキリシタンの礼拝物といわれるキリシタン灯籠や若者が力試しに使った力石などが残り、クスの大木が見られる。江戸時代までは神仏習合で、阿弥陀如来像が安置されていたが、明治時代初期に頓随寺に移された。 大正8年に奉納された標石の社号は、近代の儒学者藤澤南岳の手によるものである。	F3
15	八幡神社	大堀4	品陀別命	鎌倉時代末から南北朝時代の元弘〜建武年間(1331〜1337)に深居神社から分祀したとされ、本殿は一間社流造檜皮葺で江戸時代・元禄15年(1703)の板札が残る。境内には合祀されている稲荷神社が鎮座している。	G2
16	深居神社	小川5	品陀別命	奈良時代・養老元年(717)の創建と伝えられている。本殿は一間社流造こけら葺で、江戸時代・万治3年(1660)の棟札が残る。元弘〜建武年間(1331〜1337)までは藤井寺市域の津堂と若林・大堀・小川・川辺の総産土神であった。	G3
17	若林神社	若林1	品陀別命	鎌倉時代末から南北朝時代の元弘〜建武年間(1331〜1337)に深居神社から分祀したものと伝えられる。本殿は一間社春日造柿葺で、境内にはイチョウの大木が見られる。	H3
18	牛滝さん	丹南5		小高い丘の上に牛神を祀る祠と江戸時代・天明5年(1785)奉納の石灯籠がある。昭和30年代頃までは、田植え前の6月初旬(旧暦5月5日の端午の節句)に農耕牛を連れて来て健康を願っていた。	D9
19	八幡神社	天美西3		創建年代は不詳である。入口には文化12年(1815)銘の石鳥居が建つ。	B2
20	二見龍王大神社	上田5		創建年代は不詳で、白蛇の神を祀る。境内には観音堂と地蔵堂が建ち並んでいる。	E6
21	酒屋神社跡	三宅中6		明治40年(1907)に屯倉神社(神社No.6)に合祀された。跡地には「酒倉大神」と称する小祠が建つ。	D3
22	十二社権現社跡	新堂3		東之坊(廃寺)(寺院No.54)の境内にあったとされる。	E7
23	菅原神社跡(天満宮跡)	西大塚1 羽曳野市	菅原道真	大塚山古墳後円部頂上にあった神社で、明治41年に柴籬神社に合祀されたが、その後大津神社(羽曳野市高鷲所在)に再度合祀された。享和元年(1801)銘の手水石が柴籬神社(神社No.8)に残る。	F6
24	阿麻美許曾神社	大阪市東住吉区	素戔嗚命	平安時代・大同年間(806〜809)の創建と伝えられる延喜式内社である。神宮寺があったが、明治に廃寺となっている。松原市の城連寺・油上・芝・池内と大阪市の枯木・矢田・住道の氏神である。周辺に行基池・行基橋・行基塚など行基に関するの伝承が多く残ることから、境内に「行基菩薩安住之地」と銘のある石碑が建てられている。	B2
25	大依羅神社	大阪市住吉区	建豊波豆羅和気王 底筒之男命 中筒之男命 表筒之男命	延喜式内社で、平安時代・貞観4年(862)以前の創建と思われる。「日本書紀」等に記載が見える古代の大池「依網池」の畔にあって、その鎮守社として創建されたとも考えられる。 本殿南側の参道前には依網池跡の石碑がある。	A2
26	川辺八幡神社	大阪市平野区	品陀別命	鎌倉時代末から南北朝時代の元弘〜建武年間(1331〜1337)に深居神社から分祀したと伝えられる。	G2

4．交通関連

種別	No.	名称	所在地	時代	摘要	地図
街道	1	長尾街道	天美我堂〜一津屋	飛鳥時代〜近世	中近世に熊野詣や伊勢詣、高野詣の隆盛と共に発展した堺と大和を結ぶ東西幹線道路である。「日本書紀」等にある「大津道」とする説がある。(埋蔵文化財包蔵地No.47参照)	A5〜G5
	2	竹内街道	岡〜立部	飛鳥時代〜近世	中近世に熊野詣や伊勢詣、高野詣の隆盛と共に発展した堺と大和を結ぶ東西幹線道路である。「日本書紀」等にある「丹比道」とする説がある。(埋蔵文化財包蔵地No.48参照)	D8〜E8
	3	下高野街道	天美西〜河合	平安時代〜近世	中近世に熊野詣や伊勢詣、高野詣の隆盛とともに発展した大阪と高野山を結ぶ南北幹線道路である。大阪狭山市で中高野街道と合流する。(埋蔵文化財包蔵地No.52参照)	B1〜B4 C4〜C7
	4	中高野街道	三宅中〜丹南	平安時代〜近世	中近世に熊野詣や伊勢詣、高野詣の隆盛とともに発展した大阪と高野山を結ぶ南北幹線道路である。(埋蔵文化財包蔵地No.53参照)	E1〜E9
	5	住吉道	高見の里〜新堂	近世	長尾街道と中高野街道を結ぶ道で、その前身は「斜向道」である。	D5〜E7
古道	6	難波大道跡	天美西	飛鳥〜奈良時代	難波宮中軸線朱雀大路を南下した場所で、発掘調査により幅約18mの南北道路が発見された。「日本書紀」等に記載が見える「大道」と推定される。	A1〜A5
	7	大津道推定地	天美我堂〜一津屋	古代	「日本書紀」等に記載が見える古代の官道で、長尾街道の初源とする説がある。長尾街道沿いの発掘調査で道路側溝を確認した。	A5〜G5
	8	丹比道推定地	岡立部	古代	「日本書紀」等に記載が見える古代の官道で、竹内街道の初源とする説がある。	D8〜F8
	9	斜向道跡	高見の里〜立部	古代	大津道推定地と丹比道推定地を結ぶ古道で、古文書等の記録はないが、明瞭な土地地割が残る。これを「丹比道」とする説もある。住吉道は一部この古道を継承するものである。	D6〜F8
道標	10	中高野街道阿保4丁目地蔵堂前道標	阿保4	明治15年(1882)	中高野街道傍に所在する角柱の道標である。 右 八尾 信貴山 左 平野 大阪 明治十五年九月建之	E5
	11	長尾街道ちちかみばし道標	上田1	明治43年(1910)	長尾街道傍に所在する尖頭形角柱の道標である。 ちゝかみはし 長尾街道 長尾街道 明治四十三年二月修繕 大阪府	D5
	12	中高野街道・住吉道新堂3丁目道標	新堂3	江戸時代後期 天保5年(1834)	中高野街道と住吉道との分岐点路傍に所在する尖頭形角柱の道標で、現在は、三叉路南西に移されているが、元は北側の分岐中央にあった。 左 さかい 住よし 道 右 平野 大坂 道 すく かうや よしの 道 天保五年午正月建之 釋善心	E7
	13	竹内街道・中高野街道茶屋筋道標	岡5	江戸時代後期 寛政9年(1797)	竹内街道と中高野街道との交差点路傍に所在する蒲鉾形角柱の道標で、現在は北西角に移されているが、元は南西角にあった。 ひらの 右 道 大坂 さやま 左 三日市 道 かうや 左 さかい 道 寛政九丁巳年五月 いせこう中	E8
	14	竹内街道・中高野街道分岐道標	岡4	江戸時代後期 寛政9年(1797)	竹内街道と中高野街道との交差点路傍の南東角に所在する道標で、長い間地中に埋もれていたが、平成25年に修復され元の位置に再び建てられた。 ふちゐ寺 左 上太子 道 やまと さやま 右 (三日市) 道 かうや 寛政九丁巳年五月 いせこう中 ひらの 左 道 大坂	E8
	15	歳の上地蔵堂	天美我堂7	江戸時代後期 嘉永元年(1848)	善正寺の門前に祀られている花崗岩製地蔵堂の側壁板正面と小口に道標が刻まれている。現在は、改修されて側壁板正面には上から新しい石板が貼られている。 右 さかい 道 施主 東西我堂村中 中長 松甚 □兵衛 世話人 川惣 嶋安 惣七 弥三八 嘉永元戊申 七月吉日 すく 志ぎ山	A4
	16	最勝寺前地蔵像	天美北5	江戸時代	最勝寺前の小堂に祀られている地蔵像の光背に道標が刻まれている。 右 ひらの 左 すみよし	C2
	17	下高野街道天美東8丁目地蔵像	天美東8	江戸時代	下高野街道傍に地蔵像を刻む蒲鉾形角柱の道標が所在する。 右 志ぎ山 八尾 ひらの 三宅村 左 大坂 天王寺 あま岸 施主 我堂村 嶋屋安兵衛 すく 高野山 狭山 道	B3
	18	天美東8丁目地蔵像	天美東8	江戸時代	小堂に2体並んで祀られている地蔵像の光背に道標が刻まれている。 右 天王寺 大坂 左 なら ミち 右 八尾 平野 道 左 天王寺 中の	B3
	19	教通寺前地蔵像	南新町1	江戸時代中期 享保13年(1728)	教通寺前に祀られている地蔵像の光背に道標が刻まれている。 旭童女 享保十三戊申 正月十三日 是南 かうや道 東 なら ふしい寺	C5
	20	元長尾街道布忍橋東詰地蔵像	堺市北区	江戸時代	地蔵像を刻む尖頭形角柱の道標で、現在は堺市北区中村共有墓地に祀られているが、元は長尾街道の布忍橋東詰に所在した。(道標No.26参照) これより 東 ふちい寺 森田屋庄兵衛	B6
	21	敬念寺前元追分道地蔵像	高見の里3	江戸時代中期 天和2年(1682)	敬念寺前の小堂に2体並んで祀られているが、元は長尾街道と住吉道との分岐点(追分道)路傍にあった。年号を刻む道標としては市内最古のものである。(道標No.27参照) 右 はせ よしの 左 なら ふしいてら 天和二壬歳七月十日	D5
				江戸時代	右 はせ よしの 左 ふちい寺 なら	
	22	三宅別所霊園内地蔵像	三宅東3	江戸時代	無縁墓地に祀られている地蔵像の内3体の光背に道標が刻まれている。 右 てんしん 左 はし□ すく 八まん宮 施主 慈誉正眼	F3
				江戸時代	すぐ なら みち 左 八まん みち	
				江戸時代	右 はし□ 暢誉宗把 左 そうしゝ みち	
	23	長尾街道一津屋1丁目地蔵像	一津屋1	江戸時代	長尾街道傍に、地蔵像を刻む蒲鉾形角柱の道標が所在する。 右 平野 大坂 左 さかい 道 すく ふしい寺 なら すく ひらを	G5
	24	天美南6丁目地蔵像	天美南6	江戸時代	小堂に祀られている地蔵像の基台部分に道標が刻まれている。 左ハ 住吉 天王寺 のミち	B3
	25	天美西2丁目地蔵像	天美西2	江戸時代	民家の庭に祀られている地蔵像の光背に道標が刻まれている。 右ハ 天王寺へ七十丁 左り 天王寺 住吉 道	B2
	26	長尾街道布忍橋東詰地蔵跡	東新町4	江戸時代	長尾街道の布忍橋東詰の路傍にかつて道標を刻む地蔵像が祀られていたが、現在は堺市北区中村共有墓地に移された。(道標No.20参照)	C5
	27	追分道地蔵跡	高見の里2	江戸時代中期 天和2年(1682)	長尾街道と住吉道との分岐点(追分道)祀られていたが、現在は敬念寺前の小堂に移されている。(道標No.21参照)	D5
茶屋	28	阿保茶屋	阿保3・4 上田1・2	近世	長尾街道と中高野街道との交差点付近にかつて茶屋があり、往来の人々でにぎわった。	E5
	29	竹内街道・中高野街道茶屋筋	岡4・5	近世	竹内街道と中高野街道との交差点付近にかつて茶屋があり、往来の人々でにぎわった。	E8
渡し	30	川辺の渡し跡	大堀4	江戸時代	大堀4丁目所在の八幡神社付近で、大和川を渡す船があった。	G2
	31	瓜破の渡し跡	大阪市平野区	江戸時代	中高野街道の一部で、大和川を渡す船があった。	E1
	32	矢田の渡し跡	大阪市東住吉区	江戸時代	下高野街道の一部で、大和川を渡す船があった。	B1
その他	33	一里塚跡	阿保5・三宅中2	近世	中高野街道路傍に所在する。大阪市平野区の大念仏寺からおよそ1里の地点にあたる。元は道の両側に小丘があったらしいが現存しない。	E4
	34	駅家推定地	北新町6 東新町1	古代	平安時代・延久4年(1072)に記された「太政官牒」に里名「北三条駅家里」の記載があることから、東新町1丁目付近に駅家が存在したとする。また、北新町6丁目付近の長尾街道沿いにある小字名「正殿」「馬取淵」を駅家跡とする説もある。	B5 C5

5．城館

No.	名称	所在地	時代	摘要	地図
1	三宅城(三宅砦)推定地	三宅中5	室町時代	城について明記した古文書はないが、「蔭涼軒日録」の室町時代・明応2年(1493)と「石山本願寺日記」の天文15年(1546)に当地で布陣した記載がある。また、江戸時代・宝暦10年(1760)の「三宅村明細帳」にも城跡に関する記載がある。	E3
2	松原城推定地	岡2	南北朝時代 延元3年(1338)頃	丹下氏の拠城である。「和田文書」に当城での合戦の記載があり、「南山巡狩録」(1809)にも記載が見える。	E7
3	丹南藩陣屋跡	丹南3	江戸時代〜明治時代	譜代大名・高木氏1万石の陣屋。丹南藩初代藩主高木正次が元和9年(1623)に陣屋を構え、明治2年(1869)の廃藩置県まで続いた。	E8
4	丹南城(丹南陣)推定地	丹南5	南北朝時代〜室町時代	城について明記した古文書はないが、「楠木合戦注文」の元弘3年(1333)と「大乗院寺社雑事記」の明応2年(1493)に当地で布陣した記載がある。小字名に「矢倉畠」「城ノ堀」「木戸口」がある。	E9 F9
5	丹下城跡	西大塚1	南北朝時代	大塚山古墳を利用して築かれた丹下氏の拠城である。「和田文書」には、延元2〜3年(1337〜1338)に当城をめぐって数度合戦が行われた記載がある。	F6 G6
6	一津屋城推定地	一津屋5	室町時代	小字名に「山城屋敷」がある。『大阪府全志』(1922)では三好駿河守の拠城とされる。なお、当城は一津屋古墳上に立地しており、現在は厳島神社がある。	G5
7	別所城推定地	別所8	室町時代	小字名に「城山」があり、「別所村絵図」及び土地区画に明確に痕跡を残す。『大阪府全志』(1922)では、畠山高政の拠城とされている。	F2
8	大堀城(大堀塁)推定地	大堀1	室町時代前期	小字名に「城屋敷」がある。「河内志」(1735)、『大阪府全志』(1922)では大堀左馬の拠城とされる。	G3 G4
9	若林城(若林陣)推定地	若林1	室町時代	城について明記した古文書はないが、明応2年(1493)に布陣した記載が「蔭涼軒日録」にある。	H2 H3

6．墓地

No.	名称	所在地	時代	摘要	地図
1	来迎寺内丹南藩主高木氏墓所	丹南3	江戸時代	元和9年(1623)以降、来迎寺(寺院No.32)が丹南藩主高木氏の菩提寺となり、境内に藩主の墓等を祀る。	E8
2	三宅別所霊園内妻屋可雪斎秀員墓	三宅東2	江戸時代中期	妻屋秀員は、天和2年(1682)に三宅村庄屋の家に生まれ、明和2年(1765)に没している。号を可雪と称する歌人であり、「積翠集」等の歌集を残す。	F3
3	北山橘庵墓	一津屋5	江戸時代後期	北山橘庵は享保16年(1731)生まれで、寛政3年(1791)に没している。医者であり、儒学者であり、漢文学者でもある。一津屋に住み、「橘庵詩鈔」等を残す。	G5

7．その他

No.	名称	所在地	時代	摘要	地図
1	更池村惣井戸	南新町1	江戸時代後期	寛政8年(1796)銘の井筒があり、井筒の内面に多聞院の5代住職龍昌の銘がある。元は西除川の河川敷に存在したが、河川改修に伴い現在の場所に移された。	C5
2	稱名寺惣井戸	南新町2	江戸時代	稱名寺(寺院No.13)に井筒が残るが時期は不明である。	C6
3	高見村惣井戸	高見の里3	江戸時代後期	天保8年(1837)銘の井筒があり、弘法大師にまつわる伝説がある。	D6
4	城連寺・池内共同墓地内キリシタン灯籠	天美北7	江戸時代?	無縁墓地に祀られている。角柱形の竿部に地蔵像が刻まれ竿上部は左右に張り出している。竿部の地蔵像はマリアまたはキリスト教宣教師と言われる。また、左右に張り出した竿上部は十字架とも、茶人が好む織部灯籠とも言われる。なお、竿部以外は遺存していない。	B2
5	熱田神社内キリシタン灯籠	別所6	江戸時代?	城連寺・池内共同墓地のものと類似している。灯籠には、笠、火袋、中台等が備わっているが、竿部以外は現代に作り直したものである。	F3
6	三宅別所霊園内キリシタン灯籠	三宅東3丁目	江戸時代?	無縁墓地に祀られている。他のものと異なり竿上部の左右の張り出しがない。なお、竿部以外は遺存していない。	F3
7	丹南学校(藩校)跡	丹南3	明治時代初期	明治元年(1868)に丹南藩主高木正坦が国家のための人材育成を目的に陣屋内に設立した。明治4年(1871)に廃藩置県で堺県へ払い下げられ、明治9年(1876)に丹南小学校となった。	E8
8	北山橘庵宅跡	一津屋1	江戸時代	北山橘庵が居住したところで、当時の文人がよく集った。	G5
9	阿保親王邸跡伝承地	阿保5	平安時代	平安時代・承和元年(834)に当地へ移り住んだ阿保親王は、現阿保神社の東方と西方に居館を構えたとされる。その西方には儒教講堂や中門、北方の旧三宅村南入口付近には北門を構えたとされる。また、南方の稚児が池は「親王池」ともいい、阿保親王が築造したと伝えられる。	E4
10	丹比柴籬宮跡伝承地	上田 新堂 柴垣	古墳時代	5世紀前半に反正天皇が「丹比」に「柴籬宮」を造営した記載が「日本書紀」等に見られ、現柴籬神社付近がその伝承地とされている。	E6
11	王仁の聖堂跡伝承地	岡1	古墳時代	応神天皇の時に百済(現朝鮮半島南部)より日本に漢字を伝えた渡来人・王仁が、現出岡弁財天付近に孔子を祀る聖堂を建てて学問を広めたという伝承がある。	E7
12	依網池跡	大阪市住吉区〜堺市北区	古代	狭山池と並び、古代における池溝土木開発を知る大池であったが現存しない。「日本書紀」等にその記載がたびたび見える。	A2 A3

8．民家

No.	名称	所在地	時代	摘要	地図
1	中山家住宅	別所6	江戸時代後期	江戸時代に大庄屋を務めた農家で、主屋は文化2年(1805)に建てられ、天保元年(1830)に奥座敷が増築された記録が古文書に残る。 【国登録有形文化財】主屋、湯殿、寝部屋、寮、二階蔵、南蜜蔵、炭蔵綿蔵、北二階蔵、米蔵、瀬戸物蔵、本蔵及び裏門、長屋門、長屋、塀 平成16年(2004)3月2日登録	F3
2	田中家住宅	高見の里3	明治時代初期	近代初期の特徴を持つ町屋で、主屋が明治5年(1872)頃でそれ以外は昭和初期のものである。 【国登録有形文化財】主屋、長屋門、土蔵、離れ、外塀 平成18年(2006)8月3日登録	D6
3	田中家住宅	南新町1	江戸時代後期	江戸時代の庄屋層の農家で、宝永6年(1709)に建てられ文政(1818〜1830)と天保(1830〜1844)の頃に増改築や改修工事が行われている。 【国登録有形文化財】主屋、長屋門 平成21年(2009)4月28日登録	C5

9．樹木

No.	名称	所在地	摘要	地図
1	来迎寺のいぶき	丹南3	【府指定天然記念物】幹周410cm、高さ15m、樹齢500年 昭和56年(1981)6月1日指定	E8